

基本情報

- ◆ 実施部局: 高等研究院 ヒト生物学高等研究拠点(ASHBi)
- ◆ 相手方機関: McGill University(カナダ、モントリオール)
- ◆ 設置時期: 2018(平成30)年10月
- ◆ 設置場所・設置タイプ: 高等研究院 ヒト生物学高等研究拠点(ASHBi)・インバウンド型
- ◆ 設置目的: マギル大学研究者との国際共同研究によるヒト生物学領域の研究力強化、Joint PhD プログラムを通じた教育連携
- ◆ 活動内容: マギル大学との国際共同研究、および Joint-PhD 学生の相互受入

期待される波及効果

海外シニア研究者をPIとして招聘する組織制度の確立: Co-PIがマネジメントをサポートすることで、外国人PIが海外からリモートでラボ運営できる新しい制度を実践、全学普及に向けたモデルとする。また本制度では、Co-PIである若手研究者が外国人PIからラボ運営を直接学べるため、次世代研究者育成の新しいモデルとしても有効である。

専門職人材による外国人研究者支援システムの確立: 専門的な知識・経験を持つ人材が、研究現場で問題解決型の支援を機動的に実践し、全学普及に向けた外国人研究者支援システムを確立する。

活動概要

<研究者の常駐、運営体制等>

- 海外在住PI&学内Co-PI によるインバウンド型オンサイトラボ: 海外研究機関に所属するシニア研究者(Bourque教授、カナダ マギル大学)が過大な負担を負わずに本学PI(海外PI)として参画できるよう、本学に常駐するCo-PI(井上特定准教授)がラボ運営をサポートする。海外PIは「特別招へい教授」制度によって採用され、年に数回の来学を求められるが、通常はCo-PIとのオンラインミーティングを通じて緊密な情報共有を行いリモートでラボを運営する。

- 高度専門職による外国人研究者支援: 高度専門職を擁した国際連携推進ユニットが、研究現場で問題解決型の支援を組織的に行うことで、海外PI・外国人研究者が研究に集中できる国際レベルの研究環境を整備する。

<自走に向けた財源確保のための取組>

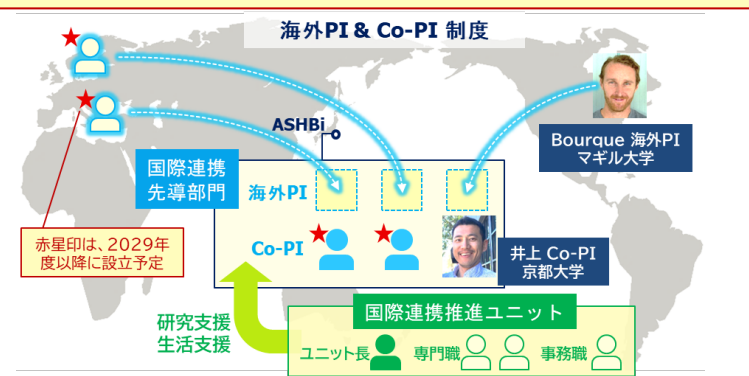
2026年度概算要求により、Co-PIを雇用する定員内ポストを2つ獲得できたため、井上Co-PIを安定したポストで雇用できる。また国際連携推進ユニット長を採用するための定員内ポスト1つに加えて、専門職1人と事務職1人の雇用費も獲得できたため、同ユニットの構成メンバーも安定したポストを用いて雇用可能である。

<活動内容・活動計画>

Bourque 海外PIは2018年10月に、井上 Co-PI は2020年7月に採用され、本ラボは6年以上の活動実績がある。Bourque 海外PIは年に3回ほど来学し(2025年度は計75日間の滞在)、ASHBi研究者との国際共同研究を活発に推進している。また京都大学-マギル大学のJoint-PhDプログラムの博士課程学生をこれまでに延べ5人受け入れている。

2025年度はマギル大学との国際共同シンポジウムをマギル大学で開催し、本学からは7人のPIが発表した。2026年度は本学がホストとなり、マギル大学からPIとJoint-PhDの学生十数名を招へいして国際共同シンポジウム・リトリートの開催を計画している。

海外PI制度を用いて、ヒト生物学分野における世界レベルのラボを複数集めることにより、「ヒト生物学研究」における国際拠点となることを目指す



海外PI & Co-PI 制度

ASHBi

国際連携先導部門

海外PI

Co-PI

井上 Co-PI 京都大学

Bourque 海外PI マギル大学

赤星印は、2029年度以降に設立予定

研究支援生活支援

国際連携推進ユニット

ユニット長 専門職 事務職



Bourque-Inoue Lab



McGill-Kyoto Symposium in 2025

<国際共同研究の成果(抜粋)>

Zhang Z, Georgakopoulos-Soares I, **Bourque G**, Ahituv N, **Inoue F** (2026). Simultaneous epigenomic profiling and regulatory activity measurement using e2MPRA. *Nature Communications*, 17, 1724.

Chen X, Zhang Z, Yan Y, Goubert C, **Bourque G**, **Inoue F** (2025). A phylogenetic approach uncovers cryptic endogenous retrovirus subfamilies in the primate lineage. *Science Advances*, 11.

Yan Y, ..., **Bourque G**, **Inoue F**, Gokhman^ (2026). The gene regulatory evolution of the human skeleton. *Nature* (in press).

^: Co-corresponding authors